

＋ 病院建設における補助金検討のポイント

今回は、健全経営を実現するための建設投資を考える上で欠かせない補助金の有効活用についてご紹介します。病院経営を取り巻く環境は依然、厳しい状況が続いていますが、事業の継続に必要な工事は行う必要があります。そこで、建設に関わる補助金を検討してみたいかをご紹介します。

補助金検討のタイミングとスケジュール

病院建設で補助金の活用を検討する際は、プロジェクトの初期段階をお勧めします。具体的には、設計が始まる1年程前から補助金について調査するのが良いでしょう。病院建設プロジェクトは、地域医療ニーズや病院の現状など様々な要因によりスタートするため、初期段階は考えることが膨大にあり大変忙しくなります。しかし、そのタイミングに補助金を検討することには、以下のメリットがあります。

- ・行政と協議を行うことで、施設整備の方針作りがより明確になる
- ・医療ニーズと自院のポジションを客観的に考えるきっかけになる
- ・補助金申請、内示時期のスケジュールをもとに、事業スケジュールが考えられる

申請に必要な図面や提出物の提出時期は、設計期間や施工期間のスケジュールを考える基準になることもあります。補助金の種類によっては、建設スケジュールに大きく影響が出る可能性があります。特に、医療施設の建設でよく申請される医療施設等設備整備費は、国からの内示時期である夏以降にならないと施工者選定の入札ができません。開院目標や借入開始時期が明確な事業では、注意が必要です。厳しさが増す病院建設市況においては、しっかりとの方針をもってプロジェクトを進めることが成功の鍵です。その方針を立てるため、まず補助金を調べてみてはいかがでしょうか。大きな補助金額の申請が難しい案件では、少額でも申請時期や内示時期による制限のない補助金を積み上げ、申請を行うこともできます。

当社は、事業の性質に合わせた最適な補助金のご提案を行っています。補助金を活用した事業をお考えの際は、是非一度ご相談ください。

今回は、法人様の目指す病院建設を進める上で役立つ、補助金を検討する際のポイントについてご紹介しました。補助金申請の具体的な事例や、補助金申請で生じる思わぬ落とし穴などについて、さらに詳しく知りたい方はこちらの記事をご覧ください。

補助金 病院プロジェクト



申請スケジュールの押さえどころ

連載 これを知れば安心！ 建設コスト・プライスレポート

建設資材の納期遅延は、一時ほどの混乱は取まりつつありますが、長納期自体は続いています。建設コストについては急騰の時期は去りました。しかし、一部価格が下落した資材はあるものの、全体としてはまだ上昇傾向にあり、未だ下がる要素はありません。一方で、手持ち工事高を示す、2022年度末売上高を前年割れと予測しているゼネコンはありません。そのため、ゼネコン各社は利益率や受注確度、人員配置を考慮した選別受注を行うなどし、受注後も工事中の利益回復を目指す傾向にあります。さらにプラスPMの独自ヒアリングでは、2024年の残業規制に向けて4週8休を前提にスケジュールを組むゼネコンが大勢となっています。加えて、直近の円相場下落により、燃料や輸入品に対する調達力が低下したこともコスト上昇傾向の要因です。このような不安定な状況のため、発注時だけでなく竣工まで継続して、コストとスケジュールをマネジメントする重要性が高まっています。

社員紹介

建設は0から100にする、世界に1つだけの建物を作る素晴らしい仕事です。建設プロジェクトでは、お客様は着工し建物が形になって、初めて思っていたものと違うことに気づきます。しかし、工事が始まってからでは、お客様のすべての要望を叶えることができません。私は、それならば、建設プロジェクトに川上から携わることでお客様のお力になりたいと思い、建設会社から転職しプラスPMに入社しました。ご要望を1つでも多く実現することができるように、今後もご支援して参ります。週末は健康を意識して、なるべく歩くようにしています。そのおかげで、趣味のゴルフで18ホールを無事に回ることができております。



大阪本社
平野 明弘
(ひらの あきひろ)

＋PM 株式会社 プラスPM

代表取締役社長 木村 讓二

本社 〒530-0047 大阪市北区西天満 2-8-5 西天満大治ビル
TEL 06-6363-6066(代) FAX 06-6363-6466
東京支店 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-4-6 ニューカワイビル
TEL 03-6665-0053(代) FAX 03-6665-0054
Eメール info@plusweb.co.jp

＋PM Plus PM Consultant (1054055-T)

Managing Director/CEO Joji Kimura

マレーシア 16-16, 16th Floor, Wisma UOA II, No.21, Jalan Pinang, 50450 Kuala Lumpur, Malaysia
TEL+(603)2712-0263
ベトナム 16th Floor, Daeha Business Center 360 Kim Ma Street Ba Dinh District, Hanoi Vietnam
TEL+(8424)3267-3623

※本誌に対するご意見、ご感想をお待ちしております。お問い合わせ先は、たす通信編集部まで

＋ 川西市立総合医療センターが竣工しました



本事業は、地域の中核病院としての役割を担ってきた川西市様の市立川西病院(235床)の移転新築に伴い、指定管理者である医療法人協和会様の協立病院(313床)を統合、新たに公設民営病院として川西市立総合医療センター(405床)を建設するものです。2022年5月に無事、竣工を迎えました。

本事業の目的は、開設から35年経過した旧病院(市立川西病院)の老朽化へ対応し、地域のニーズにあった専門的で高度な医療の提供ができる病院を開業することです。さらに、旧病院は経営難に陥っており、事業遅延が発生すると月に数千万円の赤字となるため、スケジュールに遅延なくできるだけ早期に開院する必要があります。そのため、最も工期を短縮できるデザインビルド(DB)方式が採用され、DB方式における技術補完、工程・予算管理、意思決定支援のために、当社がCMとして支援しました。また、全国でも事例が少ない公立病院と民間病院の統合事業であったため、カルチャーの異なる2病院の要望をまとめ、合意形成をすることが求められました。

そこで当社は、官・民統合における意思決定を円滑に行うための会議体、工期を短縮しプロジェクトを最適化するマーケットサウンディングの提案や、フロントローディング型マネジメントを採用して初期段階のコスト管理を徹底することなどを行いました。さらに、医療コンサルタントと協業を行い、ハードとソフトが一体となって支援することで、スケジュールは当初の予定から遅れることなく、施工段階においても当初予定していたコスト内での竣工を成し遂げました。

川西市立総合医療センターは、川西市様と市立病院・民間病院の2病院の要求水準を達成し、患者様の療養環境という面とスタッフ様の労働環境という両面から優れた工夫がなされた病院として、2022年9月に開院しました。

※フロントローディングとは

プロジェクトの早い段階で事業主のニーズをとりこみ、設計の初期段階に力を入れ、後工程の手戻りを減らすことにより、全体の業務量を削減し、適正な品質・コスト・工期をつくり込むこと

川西市立総合医療センター

事業主	：兵庫県川西市	延床面積	：36,619.14㎡
建設地	：兵庫県川西市	C	M：株式会社プラスPM
運営者	：医療法人 協和会	設計	：清水建設株式会社一級建築士事務所
用途	：病院	施工	：清水建設株式会社
構造・規模	：RCST工法/地上9階、塔屋1階	竣工	：2022年5月

千葉市立新病院整備事業	
事業主	：千葉県千葉市
建設地	：千葉県千葉市
用途	：病院
構造・規模	：RC造一部S造(免震構造)/地上5階、塔屋1階(機械室)
延床面積	：約33,300㎡
ECI発注支援	：シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング・プラスPM共同企業体
実施設計CM	：プラスPM・シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング共同企業体
基本計画・基本設計	：日建設計・システム環境研究所共同事業体
実施設計	：株式会社日建設計
実施設計技術協力	：鹿島・鶴沢特定建設工事共同企業体
竣工	：2025年12月(予定)

千葉市立新病院の実設計技術協力者が選定されました

本事業は、千葉市立海浜病院が引き続き市西部地域の中核的な病院として総合的な医療を提供するため、老朽化への対応として、現在の海浜病院の機能を基盤とした病院を移転新築するものです。

また、診療体制の維持・充実を図ることで、「少子超高齢社会に求められる新病院を整備する」ことも目的としています。

入札契約方式は、多様な方法の中から適切な方法の比較検討を行った結果、施工者のノウハウを活かした設計によりコスト縮減・工期短縮などが期待される『アーリー・コントラクター・インボルブメント(ECI)方式』を採用しました。

当社は、『ECI方式』の実設計技術協力者選定の仕組み作りを行う選定準備段階から、技術提案評価支援などを行う選定実行支援を行いました。発注者と一体となり、円滑な事業推進を支援するとともに参考価格以内での選定を実現しました。

大分記念病院	
事業主	：医療法人 大分記念病院
建設地	：大分県大分市
用途	：病院
構造・規模	：RC造/地上4階建
延床面積	：約10,100㎡(予定)
C	M：株式会社プラスPM
設計・施工	：東亜・楠山 特定建設工事共同企業体
竣工	：2025年4月(予定)

大分記念病院の設計施工者が選定されました

医療法人大分記念病院様は1980年12月に、志を共にする4人の内科医によって設立されました。「患者中心のチーム医療」を理念に掲げ、内科総合病院として、急性期・回復期・維持期で継ぎ目のない医療を行っています。この度、建物の老朽化と災害のリスクへ対応するために新築移転が決定しました。

本事業では、移転新築に際し、効率的で適正な病棟編成と療養環境・職場環境の向上を目的としています。当社は、基本計画段階から事業に参画し、当初の予算内で高機能の病院建設を実現するため、基本設計段階から建設会社の技術力を取り入れる『基本設計デザインビルド(DB)方式』を提案いたしました。

入札参加者には、診療機能・療養環境・職場環境の向上、災害時の運用持続性の確保、竣工後の良質なアフターサービスなどの提案を求めました。また、選定期間中に法人様・当社・入札参加者の三者での「提案面談」を実施し、法人様の望む計画とするためのヒアリングができる仕組みをつくることで、機能とプランの合理化を図りました。加えて、VE提案を積極的に取り入れることで、事業予算内の計画、かつより良いパートナーの選定を実現しました。2025年度の新病院竣工を目指し、引き続き支援を進めて参ります。

金森医院 移転新築計画	
事業主	：医療法人社団 金森会
建設地	：熊本県宇土市
用途	：診療所
構造・規模	：S造/地上3階建
延床面積	：約2,560㎡(予定)
C	M：株式会社プラスPM
設計・施工	：岩永・ライフジャム グループ
竣工	：2024年3月(予定)

金森医院の設計施工者が選定されました

本事業は、既存診療施設の老朽化を解消し、金森会様が今後も地域に対し保健・医療・福祉サービスを提供し続けるために、移転新築を行うものです。当社は基本構想段階から参画しました。高機能な診療所を予算内、かつ予定工期内で実現するために、『基本設計デザインビルド(DB)方式』を採用しました。さらに、昨今の建設費高騰が続く中、いかに法人様が目指す新診療所を実現できるかという視点で、大きく2つの仕組みづくりを行いました。

1つ目は、法人様と入札参加者が複数回、対話する機会を設けたことです。入札参加者に法人様の思いを理解してもらい、より良い提案となるようにしました。2つ目は、入札参加者にVE提案をしてもらうことで、法人様が必須と考える要求性能は守りながら、予算内での選定を実現することです。これらの仕組みを活用し総合評価を行うことで、医療機能とコストの最適化を両立した設計施工者選定となりました。

今後も2024年3月の竣工を目指し、法人様の思いを実現すべく、支援を行って参ります。

八反丸リハビリテーション病院建替事業	
事業主	：医療法人 慈圭会 八反丸リハビリテーション病院
建設地	：鹿児島県鹿児島市
用途	：病院
構造・規模	：RC造/地上5階建
延床面積	：病棟 約5,800㎡(予定)、管理棟 約700㎡(予定)
C	M：株式会社プラスPM
設計・施工	：大成建設株式会社
竣工	：2024年2月(予定)

八反丸リハビリテーション病院の起工式が執り行われました

2022年8月26日に八反丸リハビリテーション病院建替事業の本棟及び管理棟の新築工事の起工式、安全祈願祭が八反丸理事長以下関係者ご列席の下、執り行われました。

本事業は老朽化した現病院の道路向かいの敷地に新病院本棟約5,800㎡、管理棟約700㎡を新築するものです。今後18ヶ月の工期で、2024年2月の竣工引渡を予定しています。

当社は、新型コロナウイルス感染症をはじめとする近年の世界情勢に端を発する物価上昇により、建設プロジェクトにとって厳しい状況が続くなかで限られた資金を有効に活用できるよう支援してきました。

病院の医療機器装置や厨房設備、新築工事後に実施される既存病院の解体工事、新築工事間の調整、さらに本棟工事と管理棟工事の調整など、それらの専門スキルと知識を持った関係各社の支援を仰ぎながら、予算内、予定工期内に事業主様の希望通りの「地域で一番のリハビリテーション病院」の完成を目指し、引き続き竣工まで支援して参ります。

公立学校共済組合 新四国中核病院整備事業がスタートしました

「公立学校共済組合新四国中核病院整備事業基本計画・要求水準書作成等CM(コンストラクション・マネジメント)業務」のプロポーザルにおいて、プラスPMが最優秀者に特定され受注しました。

本事業は、四国中央病院施設の老朽化・狭域化を解消するため、分院であった三島医療センター跡地に新中核病院を建設する計画です。新病院は、組合員や地域住民の「健康寿命の延伸」に向けた医療提供をし、かつ災害発生時の拠点として機能することを目指しています。

当社の持つ公立・公的病院の建設支援における豊富な経験を活かし、建築・経営的視点により、多角的に事業を支援して参ります。

事業主	：公立学校共済組合	延床面積	：24,000㎡を上限(基本構想)
建設地	：愛媛県四国中央市	C	M：株式会社プラスPM
用途	：病院	設計・施工	：未定
構造・規模	：構造未定/地上5~7階建(基本構想)	竣工	：2028年度開院(予定)

発注方式一覧

発注方式	内容
設計施工分離方式	設計と施工を別の業者に発注する方法
基本設計デザインビルド(DB)方式	基本計画段階から設計・施工の両方を単一の建設会社に一括して発注する方式
実施設計デザインビルド(DB)方式	実施設計段階から設計・施工の両方を単一の建設会社に一括して発注する方式(基本設計は、設計事務所などに発注)
アーリー・コントラクター・インボルブメント(ECI)方式	実施設計段階より施工者(建設会社)の技術力を設計内容に反映させることで「コスト縮減」や「工期短縮」を目的とした方式

地域医療の要として、その役割を磨き上げる。白十字病院が新病院建設に込めた思い。

福岡市西区にある白十字病院様は、地域医療を支えるケアミックス型病院を構えていましたが、これを2つに分院。

新病院は急性期医療に特化した病院に、旧病院は回復期に特化した白十字リハビリテーション病院に生まれ変わりました。

白十字病院はなぜそのような決断をしたのか。

それを紐解くと、今後の医療情勢を鑑みつつ、真摯に地域医療と向き合った病院経営のひとつのあり方が浮かび上がります。

白十字 建て替えプロジェクト

検索 🔍



社会医療法人財団 白十字会 白十字病院